

平成28年度の学校評価及び学校関係者評価結果

ア 自己評価結果

本年度の重点目標		生徒が自ら進んで専門分野（各教科・科目）に精通し、未知なるモノを創造する力を身につけるとともに、良識ある社会人としてのモラルを実践できる総合力を育成する。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題	
1 教務	日々の授業や考査を通じ、基礎基本の定着を図ると共に、教務上の業務の効率化と情報管理の体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科主任会等を通じ重要事項の周知徹底を図る一方、欠課多者等に関する情報共有に努める。 ・成績関係書類作成の自動化を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欠課多者については学年会や教科会との間で情報共有できた。今後も該当の生徒には留意する必要がある。 ・通知表の作成・印刷のシステムに関し、学年会や図書情報部と連携し、自動化を実施することができた。 	
2 総務	P T A活動の各行事のあり方について検討を加え、より合理的で充実したものに改善する。	実行委員会や専門委員会の開催日の見直し等、P T A活動がより円滑に進むように工夫する。	役員会、実行委員会に関して、想定していた改善をほぼ実行することができた。引き続き委員、職員にとって好ましい形を探っていききたい。	
3 生徒指導	「礼節を重んぜよ」をキーワードに良識ある社会人としてのモラルを実践できる総合力を育成する。	日々の遅刻指導、身だしなみ指導を通して、礼儀をわきまえ節度ある行動がとれるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「礼節を重んぜよ」の具体的な指導の中で、特に挨拶や身だしなみについては、更衣期間の5月と9月に「生活指導強調週間」を設定し、登校時の校門指導で行った。 ・スカート丈の指導に関してはその期間中は多少改善されるが、その後の継続指導が必要である。 	
4 進路指導	職員間で進路指導に対する共通認識を持ち、データに基づいた組織的で継続性のある進路指導を展開し、生徒の進路実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・実力考査のデータの有効活用を図るため、実力考査のあり方を検討する。 ・大学ガイダンス等をより充実したものにし、1、2年生における進路意識の高揚を図る。 ・各学年で行われる進路情報交換会の内容の充実を図り、最後まで第一志望を大切にする進路指導を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題考査を含めて応用部分、課題部分の配点等の調査を行った。今後、その調査をもとに、実力考査のあり方を具体的に検討する。 ・大学ガイダンス等に結果的にはある程度の人数の生徒が参加したが、当初の参加希望者数が少なかった。今後は、「進路通信」でガイダンスの趣旨を説明し、広報活動に努めるとともに、学年会と連携し、ガイダンスに積極的に参加する雰囲気作りに努める。 ・進路情報交換会の意味づけを明確にし、より充実したものとする。 	
5 保健相談	快適な学校環境の実現と生徒の心と体の健康増進に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の清掃や点検活動を通して、自ら環境美化に努める姿勢を育成する。 ・学年や担任との情報交換を行い、連携して生徒に対応できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全委員会、保健委員会を定期的に関き、教室の安全、清掃点検を実施した。今後は清掃時間外でも落ちているゴミを自ら拾う姿勢を身につけさせたい。 ・保健室やスクールカウンセラーを中心に生徒の情報交換を行い、学年と連携して対応を決めることができた。 	
6 生徒会	自主自立の精神に基づき、全校生徒が主体的に活動できるような企画、運営を行なう。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒議会、部活動連絡会、執行委員会のさらなる活性化を促進する。 ・東北被災地関連企画の実施、安積高校との交流を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自主自立」に加え、「明和方式」という言葉が生徒の行動様式の指針として根付きつつある。自分たちの決めたルールをしっかりと守ろうという意識が高くなり、行事の準備、片付けに反映されていた。参加者としての意識も向上し、各行事が円滑に運営できた。 ・東北支援物産展に加え、熊本支援の募金活動を行なった。 	
7 図書情報	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒および教員の図書館利用を活性化させる。 ・校務処理の合理化を進めるとともに情報発信力も高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新刊書紹介の強化、生徒図書部による「図書館報」の紙面作りを図る。 ・校務支援システムでの指導要録・調査書作成の運用をさらに継続しデータの流れを整理し有効活用を図る。 ・HR担任の通知表作成を支援する。 ・ホームページを魅力あるものにする。 ・ネットワーク管理の適正化をさらに進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の貸出冊数は1170冊(12月まで) だった。昨年に比べ少なかった。各教科と連絡を密にし、本の利用をさらに活性化させたい。 ・通知表、HPは概ね良好であった。 ・ネットワーク管理についてはさらに改善していききたい。 	
8 研究開発	Ⅱ期目のSSH採択を目指し実施計画案を見直す。	<ul style="list-style-type: none"> ・SSH事業を探究活動の「問題発見」場面に結び付けられるように内容の充実をはかる。 ・探究活動への取り組みを客観的に評価する手法を考案するとともに生徒の活動意欲を高める。 	第Ⅱ期のSSH申請書を作成し提出することが出来た。ここでは、探究活動の評価法と、教科融合型課題研究の指導法の確立が研究開発の主目的となっている。早急に、ループリックを用い客観性の高い評価とその定量化、探究活動の場면을有機的に構成した課題研究の指導法を具体化する必要がある。	

	項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
9	音楽科	自ら発見し、考え、行動できる生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・高い学習レベルを維持させるとともに、時間を効率的に使わせ個々の技術向上に努めさせる。 ・清掃活動や身だしなみについて、各自に工夫させ、より良い生活環境を整えるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との比較ではなく、自分自身のための目標を立て、そのための学習(練習)計画・試験(本番)の取り組み方を、考えさせるための指導サポートをしていきたい。 ・身だしなみや環境が、自身の演奏などにも反映することが、少しずつではあるが、浸透してきたと感じた場面があった。来年度も継続して指導の徹底をはかりたい。
10	1年	基本的な生活習慣を整えるとともに、将来の進路を見据えた基礎的な学力と自律して行動できる豊かな人間性を養う。	学習活動、特別活動に積極的に取り組ませつつ、効率的な時間配分や取り組みの姿勢等、バランスよい高校生活をスタートさせる。	学習活動においても特別活動においても概ね順調に学校生活を送ることができた。今後さらに学校を中心とする学年としてこれを継続し、高い目標を持たせたい。
11	2年	学校の中核を成す学年として、何事にも積極的に取り組ませ人間性を高めさせる。	学習、進路、行事、部活動等の各場面において、生徒が積極的に取り組めるよう指導・助言する。	計画の変更を余儀なくされた修学旅行などを乗り越え、中心学年としての成長が見られた。反面、負担感や疲労感を感じ、不安定になる生徒も目立った。その中でもより高い進路目標に挑戦できるよう更に意識を高めたい。
12	3年	生徒の進路実現を図るとともに、モラルある良識的な社会人を育成する。	生徒の進路希望・学習状況の情報を学年会で共有し、本校の生徒の特性を十分に考慮した適切な進路指導と学習指導を積極的に展開する。	学年会を中心に生徒の進路希望・学習状況の情報を共有し、文理及び生徒の特性を活かした進路指導と学習指導を実施することができた。また、生徒については、授業を初めとして、学校行事、学力補充、模擬試験等にも積極的に参加し、3年生としての自覚が備わった。卒業・進学後も、あらゆる場面において、さらなる成長・活躍を期待したい。
	いじめ防止等	いじめの未然防止、早期発見を図る。	生活実態調査の内容や実施時期の見直しを図り、効果的なものに改善する。	いじめの有無の調査方法を改善し、現状把握が進んだ。また、教育相談・特別支援教育委員会において、情報共有と関係部署の調整を図り、迅速にして的確な最善の指導が行えるように努めた。
	総合評価		各分掌・各学年の真摯な取組と相互の連携によって、「未知なるモノを創造する力」と「良識ある社会人としてのモラルを実践できる総合力」の育成に努めた。落ち着いた学習環境を整えながら、授業、学校行事、部活動、SSH事業等を通し、身につけた知識を活用させる場면을積極的に作り出し、生徒たちの成長を支えることができた。	

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで専門分野に精通し、未知なるモノを創造する力を持つ人材に、生徒を成長させることができたか。 ・社会人としてモラルを実践できる総合力を生徒に育成することができたか。
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の立場でいた時には気づかなかった、さまざまな取組がなされていることがわかった。 ・日頃から本校で豊かな情操教育がなされていることがうかがわれる。卒業のメッセージからは、学校や親に対する感謝の気持ちが強く感じられた。心からお礼を言うことのできる力は大切だ。
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の貸出冊数減少については、本の良さを伝えていくといい。本は飛ばして読める等、ネットよりも優れた点も多い。 ・海外との交流が定着しているが、せっかく現地を訪れるのだから、外国の高校生が何をしているのかを知り、吸収するといいい。学校間でも授業を交換したらどうか。日本人にはない発送で授業をしていることがわかるだろう。日本人は目の前にぶら下がっているものを気にしすぎだ。もっと留学するといいい。
その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	<ul style="list-style-type: none"> ・難関大学にたくさん合格させればいいという進学指導ではなく、生徒たち一人ひとりにどうやって生きていくかを考えさせる進路指導をしてほしい。 ・トヨタ自動車との連携による女性エンジニア講座はぜひ続けてもらいたい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> ・構成……学校評議員4名及びPTA会長・副会長 ・評価時期……3月1日